

工学院大学「緊急シンポジウム」

(共催)

工学院大学オープンカレッジ
朝日カルチャーセンター

福島原発事故を理解する ―放射能と原子炉の正しい知識―

日時	平成 23 年 4 月 2 日(土曜日)	午後 1 時～午後 4 時半
場所	工学院大学新宿校舎 3 階	アーバンテックホール
入場無料	東日本大震災への救援募金を受け付けます	
申し込み	不要(多数の場合には別教室にテレビ中継します)	
問い合わせ先	工学院大学オープンカレッジ	電話 03-3340-1457
アクセス	http://www2.kogakuin.ac.jp/map/shinjuku/index.html	

プログラム

1) 放射線量の読み方と的確な対処法

講師 柴田 徳思 氏

東京大学名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授

高エネルギー加速器研究機構名誉教授(元放射線科学センター長)

日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 特別研究員

日本学術会議連携会員

(放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会委員長)

2) 福島原発事故の現状と今後の展開をどう読むか

講師 二ノ方 壽 氏

東京工業大学原子炉工学研究所教授(原子炉安全工学)

米国原子力学会(ANS)フェロー

日本学術会議連携会員

(総合工学委員会委員、エネルギーと科学技術分科会委員)

3) ディスカッション

==緊急講座の趣旨==

東日本大震災の津波による福島第一原子力発電所の事故は、2週間余を経過しても依然として不透明な状況です。電源喪失により冷却機能を失い、水素爆発によって建屋も損傷しました。現在、被曝の危険の中、冷温停止状態に持ちこむべく懸命の努力が続けられています。しかし、残念ながら放射能漏れの範囲が拡大し、農産物や水道水にまで影響してきました。

風評に惑わされず、この事態を冷静に受け止め、的確に行動するには、起こっていることを、純粋に科学の視点で正しく理解することが不可欠です。

放射線管理で長い経験をお持ちの柴田先生に、放射線の基礎知識から始めて、線量の規制値と比し、現在のデータをどう捉えるのかについてお話いただきます。

動力炉・核燃料開発事業団や米国の国立研究所等における豊富な実務経験をもとに、原子炉の安全設計や事故事象のシミュレーションがご専門の二ノ方先生から、この事態が今後どう展開していく可能性があるか、長期的な視点でお話いただきます。